

# 障害児の母親における 就労とQOL(生活の質)を考える

講演者： 茨城キリスト教大学 文学部・教授

江尻 桂子

障害児を育てる母親の就労や収入、社会的サポート、およびQOL(生活の質)について、質問紙調査の結果をもとに報告します。また、これらの報告をふまえ、今後の障害児の家族支援について議論します。ご興味・ご関心のある方は、是非ご参加下さい。また、札幌法と心理研究会にこれまで参加されたことが無い方は、下記の問い合わせ先まで事前にご連絡ください。

日時： 2016年11月2日(水) 18:30～

場所： 北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W000 教室

## 講演者のプロフィール

江尻 桂子 (Ph.D)  
茨城キリスト教大学 文学部 児童教育学科・教授  
発達心理学を専門分野とされ、  
乳幼児のことばや運動、認知発達、  
子どもの安全教育に関する研究にも取り組まれています。  
また、女性研究者や若手研究者の支援、働く母親への支援、  
障害のある子どもの家族支援、ワークライフバランスにも  
関心をお持ちです。

### [略歴]

お茶の水女子大学大学院にて博士(人文科学)の学位を取得。  
日本学術振興会特別研究員として米国メイン州での在学研究後、  
茨城キリスト教学園シオン短期大学を経て、  
現在、茨城キリスト教大学 文学部・教授。



後援： 国立研究開発法人「科学技術振興機構 (JST)」社会技術研究開発センター (RISTEX)  
研究開発領域「安全な暮らしを作る新しい公/私空間の構築」

「多専門連携による司法面接の実施を促進する  
研修プログラムの開発と実装」(研究代表者：仲真紀子)

お問い合わせ先：  
北海道大学司法面接支援室  
child@let.hokudai.ac.jp  
TEL/FAX: (011) 706-2306